



## 9月の出前授業の紹介

西南中学校で9月12日に「花巻空襲」の出前授業を行いました。西南中学校では毎年、1年生の時に高村光太郎の学習をしているとのことで、花巻空襲後に光太郎が「非常の時」という詩を書いていることに関わって、その花巻空襲がどんなものだったのかを学ぶための出前授業でした。

空襲に関する解説を聞き、実物資料を観察することで、光太郎が詠んだ詩の背景が実感を持った理解になったようです。



西南中学校の出前授業の様子(1年生)

**生徒代表の感想(一部省略)** 「戦争は兵士だけじゃなくて民間の人たちも被害にあっていた。戦争は怖いものだというのはわかっていただけ、ただ怖いではなく恐怖だということが分かった。資料などを見る限りとても大変な時代だったんだなと感じた。」 「花巻が狙われた理由は、軍需物資の輸送や兵員の輸送を断ち切るためだということが分かった。自分も同じ花巻にいるので、怖いと感じた。」

### 非常の時

高村光太郎

非常の時 人安きをすてて人を救ふは難いかな  
 非常の時 人危きを冒して人を護るは貴いかな  
 非常の時 身の安きと危きとを両つながら忘れて  
 たがすべきを為すは美しいかな  
 非常の時 人斯の如きを行ふに堪ふるは  
 偏に非常ならざるもの内にありて  
 人をして斯の如きを行はしむるならざらんや  
 大なるかな 常時胸臆の裡にかくれたるもの  
 さかんなるかな 人心機微の間に潜みたるもの  
 其日爆撃と銃撃との数刻は 忽ち血と肉と骨との巷を現じて  
 岩手花巻の町為に傾く  
 病院の窓ごとごとく破れ 銃丸飛んで病舎を貫く  
 この時従容として血と肉と骨とを運び  
 此時自若として病めるものをまもるは  
 神にあらざるわれらが隣人 場を守って動ぜざる職員の諸士なり  
 われ此をきいて襟を正し  
 人間時に清く 弱きものの亦時に限りなく強きをおもひ  
 うちにかくれたるものゝ高きを 凝然としてたゞ仰ぎ見るなり



【裏面に続く】

**参考：光太郎の詩「非常の時」**  
 ※空襲時に自らの命を顧みず負傷者を救護した医師や看護学校生の話を聞き、感銘を受けて作ったとされる。  
 ※「襟を正し」「凝然として」等から、強い衝撃だったことが伺われる。

## 9月の出前授業の紹介その2：小学生「戦争と花巻」

若葉小学校の6年生は、総合的な学習で「命・平和」を取り上げ、その学習成果を学習発表会で発表するという計画を立てて学習してきたそうです。戦争に関するDVDを鑑賞したり空襲についての調べ学習をしたりした流れで「花巻空襲」を学ぶために、博物館の出前授業を9月20日に行いました。

他校と同様に、スライド解説の途中で爆弾との背比べを設定。若葉小では、たくさんの人たちが前に出てきて爆弾の大きさを実感しました。

実物資料の観察は、多人数（120人）のため二つに分かれて実施。入れ替えの手間はあったものの、実物を見たことで理解は深まったようです。

最後の感想では「ネットや本では調べられないことが分かった」「軍隊には位があることを初めて知った」などの感想が出され、有意義な学びだったことが感じられました。



## 「かがくいひろしの世界展」好評開催中

9月30日（土）から開催している「かがくいひろしの世界展」は、初日から、県内外から多数の人が来館し、活況を呈しています。小さいお子さんには、特に「アトラクション映像」が人気になっています。



かがくい氏の絵本を知っている人はもちろん、知らない人でも、氏の圧倒的な作品の数々を見て、とても驚き、感動されるようです。



10月8日（日）には、聖心女子大学教授の水島尚喜氏をお迎えして、記念講演会が行われました。水島教授は、かがくい氏の親友であり、今回の世界展の監修者でもあります。

講演では、かがくい氏の人となりや学生時代のエピソードなど、書籍ではわからない姿を話されていました。

